

太平洋戦争末期の三河地震で、地盤が1.5メートル隆起し、1メートル左ずれしてできた深溝断層。戦時中の情報統制で被害が隠され、写真など資料が少ない中で、地震のエネルギーの巨大さを実感できる断層を見た。

戦争で秘密にされた被害 断層が示した地震の歴史

1945年8月15日の終戦の日の約7カ月前、1月13日に三河地震が発生した。関東大震災は1923年9月1日に起きて、火災で多くの人が亡くなったと聞く。三河地震から約50年後の1995年1月17日には阪神・淡路大震災が発生した。2011年3月11日には東日本大震災も起きていて、日本は地震が多発する国だとわかる。幸田町教育委員会の神取龍生さんの話によると、三河地震で亡くなった人は、建物が倒れて下敷きになったことによる圧死だったということだった。三河地震では、建物の壁にひびが入ったり地面がデコボコになったりして小学校で授業をすることが困難になり、お寺の建物を借りて授業をしたそうだ。



三河地震が発生した時期は戦争中だったこともあり、被害状況が国の秘密事項とされ、地震の情報にはほとんど発信されなかったそうだ。三河地震は直下型の地震で、三ヶ根山の北側から東側、東南側の地域で地震の被害が大きく、断層の西側の地面が1メートルから3メートルも盛り上がった。地盤の強さによって、頑丈な岩盤がある場所はおまの被害が出なかった

そうた。私は、住む場所を変えることは簡単ではないが、自分が住んでいる家にとのよ



愛知県幸田町教育委員会の神取龍生さん

うな危険があるのかをハザードマップなどを活用してしっかりと認識する必要があるので考える。そして、大切な家族と離ればなれにならないよう、災害が発生した場合の避難場所の確認や、日ごろから災害避難用の備品を整えておくことで自分のことは自分で守らな

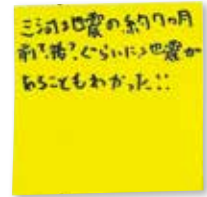
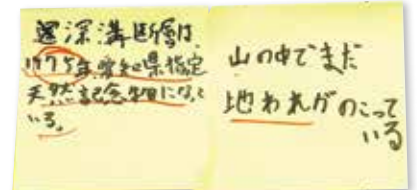
ければならないと思った。神取さんは、過去の地震の歴史を未来の防災につなげたいと話していた。深溝断層は愛知県の天然記念物に指定されて保護されている。三河地震の歴史を伝えるためにも大切にしていきたいと思った。



山田 奈緒記者



地震で地面が隆起した跡が残る深溝断層



深溝断層にて



愛知県指定天然記念物の説明が書かれた説明板



説明を聞く子ども記者